

## つくば分館の業務について

### 国立公文書館つくば分館

#### 1. はじめに

国立公文書館つくば分館は、平成10年10月、都内から100km圏内で、地震などの自然災害発生のおそれが少ない、道路網の整備された茨城県つくば市の筑波研究学園都市内に設置された。

東京の本館とつくば分館では、機能を適切に分担して一体的な運用を図っており、つくば分館では歴史公文書等の受け入れ、移管文書のくん蒸業務、目録原稿作成業務及び原本保護のためのマイクロフィルム撮影業務を行っている。

#### 2. 受入れ

平成21年度の移管作業は、「平成20年度公文書等移管計画」に基づいて各府省から一般行政文書の移管が行われ、5月7日から13日の4日間で、4tトラック7台、2tトラック4台、ワゴン車1台を用いて各府省等からつくば分館へ歴史公文書等の搬送を行い、11,614冊の公文書等を受入れた。



トラックでの搬入

財務省、防衛省及び農林水産省の各地方支分部局からは、宅配便や郵パックにより直接つくば分館に公文書等が送付され、平成21年度は、5月に地方財務局及び地方税関等から15,020冊、地方防衛局から1,444冊、6月に地方農政局等から3,022冊の受入れを行い、一般行政文書等の受入れは合計31,100冊となった。

平成12年度から計画的に受け入れている国立大学で保管している「民事判決原本」は、平成21年度は11月に広島大学から291冊、12月に熊本大学から194冊の明治23年以前の民事判決原本計485冊を受入れた。これまで10回の受け入れと合わせて、総受入数は32,202冊となった。

また、平成22年2月1日司法文書（裁判文書）の移管計画が決定し、平成21年度移管分として2月26日には最高裁判所の保管する大審院時代から昭和30年完結分までの民事判決原本（裁判文書）を受入れた。

各府省から受入れた公文書等は直ちに、各府



移管された司法文書

省からの送付目録と公文書等との照合を行い、通し番号を付して整理し、受入れ数の確認を行った後、かび・虫害等を防ぐため、くん蒸作業を行う。

### 3. くん蒸

公文書等のくん蒸は、重要文化財のくん蒸にも使用している酸化エチレン主剤のガス（エキヒュームS）を用い、減圧式くん蒸装置を使用して行う。くん蒸機の容量は約10m<sup>3</sup>あり、公文書等を入れた移管用段ボール箱約90箱を一度にくん蒸できる。一連の作業に要する日数は10日間程度で、平成21年度は延べ23回のくん蒸作業を行った。



くん蒸庫

### 4. 目録作成

目録原稿の作成は、受け入れた簿冊を見ながらパソコンで簿冊情報、件名情報の入力をする。

平成21年は、6月から12月までの約100日間、パート職員により、簿冊目録、件名目録の入力を行った。入力したデータは、デジタルアーカイブによるパソコン検索にも活用している。

入力の終了した公文書等は、簿冊に受入年度、府省庁名、排架番号等を記したラベルを貼り排架した。

### 5. マイクロフィルム化

つくば分館では、閲覧頻度が高いもの等で、

閲覧等による破損・汚損から原本を保護するため、歴史公文書等のマイクロフィルム化を進めている。

マイクロフィルムの撮影に先立ち、パート職員がコマ計算、裏写りを防ぐための合紙入れ、図面等のシワ伸ばし及びマイクロフィルムに写し込む撮影目録作成などの作業を行った。

マイクロフィルム撮影は、撮影から現像・検査までを1級文書情報管理士の資格をもった熟練した非常勤職員が撮影を行っている。これらのオリジナルフィルムは調湿剤を入れ、閲覧用複製フィルムとともに温度19℃、湿度45%に保たれたフィルム庫に保管し、定期的に巻き直しを行い劣化の防止に努めている。

また、マイクロフィルムによる閲覧については、本館と分館で同じものを所蔵しており、利用者サービスに努めているところである。

### 6. 閲覧・展示

つくば分館では、所蔵資料の閲覧サービスを行うとともに、常設展及び夏の企画展などを開催して所蔵する資料を紹介し、当館の役割を国民の皆様幅広く理解していただけるよう努めている。

#### 6.1 閲覧

つくば分館で閲覧できる公文書等は、マイクロフィルム化されたもの及び各府省等から受入れた公文書のうち公開とされ分館に所蔵されているものである。

#### 6.2 常設展示室

常設展示室では、展示室の中央に日本国憲法等の御署名原本（レプリカ）を、壁面には内閣文庫の古書・古文書や周辺の市町村に関する公文書等を数点展示し、国立公文書館の収蔵している資料の一部を紹介している。

#### 6.3 科学技術週間

毎年4月に開催される文部科学省主催の科学技術週間の期間中、筑波研究学園都市の各研究

機関では実験教室や展示会など様々なイベントを行っている。

つくば分館では科学技術週間特別企画として地域に関連した歴史公文書等の原本を展示しており、平成21年度は内閣文庫所蔵の『西洋紀聞(レプリカ)』と『視聴草(異船漂着)』、『新論』の原本を展示した。来館者は4月13日(月)から18日(土)までの6日間で145名であった。



展示を見る高校生

#### 6.4 夏の企画展

小中学校が夏休みの7月下旬から8月の間、つくば分館では毎年夏の企画展を開催している。

平成21年つくば分館夏の企画展「学びの系譜」は、江戸時代における学びのあり方から始まり現代に至るまでの学校制度の変遷を軸に、公文書と内閣文庫の資料から学びの歴史をたどるもので、本館で開催した平成20年秋の特別展で使用した写真パネル等を再活用するとともに、地元茨城県及びつくば市の地域性を加味した展示を行った。このうち、内閣文庫所蔵の『古事類苑』、『四書白文』、『経典余師』、『傍註庭訓往来』、『文部省学制原案』の原本を、常設展示室内に期間中展示替えを交えながら展示した。

つくば分館の夏の企画展は、つくば市主催の「つくばちびっ子博士」事業に協賛し、夏休みの小中学生により平易で親しみやすい展示とす

るよう心がけている。開催期間は7月21日(火)から8月31日(月)までの平日及び8月の土曜日を含む35日間で、来館者数は2,401名であった。

#### 6.5 和綴じ講座

この「学びの系譜」展では、前年に引き続き和綴じ体験講座を実施した。和綴じ体験講座は、夏の企画展における小中学生向けの体験講座として平成19年にスタートし、今回で3回目となる企画である。今回は、来館者誰もが体験できる一折並綴じの和綴じ講習(無料)と、綴じ糸の模様が亀甲の模様に見える美しい亀甲綴じ体験講座(無料)を行った。一折並綴じは、綺麗な7色の和紙から好きな色の表紙を選び、針と糸を使って自分だけのノートが作れるとあって、小学生低学年から高齢の方まで1,200名を超える多くの来館者が体験した。また、今回初めての試みとして行った亀甲綴じ体験講座は、8月の土曜日(全5回)に各回20名の予約定員制とし、参加者は表紙作りから木槌と目打ちを用いての穴あけ、角布の取付けなど全7工程約2時間の講座に熱心に取り組んでいた。和綴じの講師には、つくば分館の非常勤職員等が交替で務めた。



和綴じ体験講座